豊川市地区市民館営繕計画

第３期

【令和９年度～令和 13 年度】

令和８年９月

市民部市民協働国際課

目　次

1　計画策定の経緯と今までの取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

(1)計画策定の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

(2)これまでの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

2　第３期営繕計画の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

(1)千両地区市民館【建替え】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

(2)下郷地区市民館及び中条地区市民館【統合・再編】・・・・・・・・・・・　9

(3)金屋地区市民館及び金屋南地区市民館【統合・再編】・・・・・・・・・・１１

(4)中部南地区市民館及び中部西地区市民館【統合・再編】・・・・・・・・・１３

(5)スケジュール（参考）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

◎　参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

1　計画策定の経緯と今までの取り組み

（１）計画策定の経緯

市では、平成２９年６月に「豊川市地区市民館適正配置方針」（以下「適正配置方針」といいます。）を定め、既設の地区市民館３０館について、「今後の地区市民館は、小学校区又は連区を単位とし、公民館・生涯学習会館の配置状況を踏まえ、居住人口や地区住民の要望等を考慮して配置する」ことを基本的な考え方とし、適切な長寿命化を図っていくこととしました。

縮減目標としては、適正配置方針策定時に３０館、地区市民館全体の延床面積14,083 ㎡であったものを、５０年後には、施設数は小学校と同数程度の２６館に、延床面積は現有面積の３０％を縮減した 9,900 ㎡以内とすることとしています。そのため、集会室・和室・会議室・事務室・調理室を基本構成とするコンパクトな地区市民館を目指し、将来の地区居住人口に応じて２種類の基本モデル*を設定することで、面積の縮減を図ることとしています。

さらに、これらの方針を具現化するため、平成２９年６月に「第１期営繕計画」を、令和３年６月に「第２期営繕計画」を策定し、概ね建設年度等を基準に建替え時期を分散することで予算の平準化等を図りながら、計画的に整備を進めてきました。なお、ファシリティマネジメントの観点から、建替えは既設地区市民館の整備場所で行うこととし、統合・再編する際に限っては、新たな整備用地の取得も含めて適切な整備場所を検討することとしています。

営繕計画については、多様化する市民ニーズや社会環境の変化に対応できるよう、事業の進捗状況を確認しながら、５年ごとに計画を策定することとしており、令和８年度末で第２期営繕計画の計画期間が終了することから、令和９年度から５年間の「第３期営繕計画」を策定するものです。

＊２種類の基本モデル

A スタンダードモデル:

居住人口 5,000 人未満の地区に整備する延床面積約 300 ㎡(防災倉庫除く)の施設。

施設内容は、集会室、会議室等２部屋、事務室、調理室の合計５部屋を基本とする。

B ラージモデル:

居住人口 5,000 人以上の地区に整備する延床面積約 400 ㎡(防災倉庫除く)の施設。

施設内容は、集会室、会議室等３部屋、事務室、調理室の合計６部屋を基本とする。

（２）これまでの取り組み

第１期営繕計画（平成２９年度～令和３年度）

第１期営繕計画期間においては、２館の建替えと１館の用途廃止を実施し、延床面積として 792.97 ㎡を縮減しました。

具体的には、平尾地区市民館と古宿地区市民館について、現在（既設）の場所で延床面積を縮減して建替えを行いました。新地区市民館には多目的トイレを設置するとともに、扉の広さや開閉のしやすさ、段差の解消等、誰もが利用しやすい施設整備を図り、間取り等については地元要望を反映しています。

旧一宮町との合併時に地区市民館として引き継いだ大木会館について、地元からの要望により、令和３年４月に地区市民館としての用途を廃止し、地区の集会施設として地元町内会に無償貸与しています。

施設名	施設面積（㎡）		備　考
	整備前	整備後	
平尾地区市民館	418.54	317.35	建替え
古宿地区市民館	429.15	324.67	建替え
大木会館	587.30	－	用途廃止
合　計	1,434.99	642.02	△792.97 ㎡

第２期営繕計画（令和４年度～令和８年度）

第２期営繕計画期間においては、３館の統合、１館の建替え及び１館の用途廃止を実施し、延床面積として 921.31 ㎡を縮減しました。

具体的には、東部小学校区にある「三上」、「麻生田」、「睦美」の 3 館を再編し、新地区市民館 1 館を東部小学校に隣接して建設しました。また、三蔵子地区市民館については、既存施設と同程度の延床面積を維持して、現在の場所での建替えを行いました。いずれの新地区市民館にも多目的トイレを設置するとともに、扉の広さや開閉のしやすさ、段差の解消等、誰もが利用しやすい施設整備を図り、間取り等

については地元要望を反映しています。

旧御津町との合併時に地区市民館として引き継いだ新田集会場について、地元からの要望により、令和５年４月に地区市民館としての用途を廃止し、地区の集会施設として地元町内会に無償貸与しています。

なお、千両地区市民館については、平成２９年に敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されていることや、令和５年６月に発生した記録的な大雨により建物の一部が浸水したことなどを踏まえ、地元が所有する別の用地で建替えを行うこととして地元の合意を得ることができ、そのための設計などを行いました。

施設名	施設面積（㎡）		備　考
	整備前	整備後	
三上地区市民館	451.84	494.40	豊川東部地区市民館に統合・再編
麻生田地区市民館	419.75		
睦美地区市民館	426.00		
三蔵子地区市民館	460.25	463.63	建替え
新田集会場	121.50	－	用途廃止
合　計	1,879.34	958.03	△921.31 ㎡

2　第３期営繕計画の取り組み

適正配置方針に基づき、令和９年度から令和１３年度までの５年間を計画期間とする「第３期営繕計画」を策定します。本計画では、１館の建替えを進めるとともに、計画期間終了時までに更新年次を迎える地区市民館のうち、ポートフォリオ分析（適正配置方針 P.12-13）で「建替え」と分類された４館（３小学校区）について、同一小学校区の他の地区市民館も含めた整備方針を検討します。

具体的には、第２期営繕計画から取り組んでいる千両地区市民館の建替えを進めます。また、天王小学校区にある下郷地区市民館と中条地区市民館の２館、金屋小学校区にある金屋地区市民館、中部小学校区にある中部南地区市民館が順次更新年次を迎えるため、同一小学校区に立地する金屋南地区市民館、中部西地区市民館も含めた、３小学校区６館について、小学校区ごとに整備方針の検討を行います。建替え時期の分散による予算の平準化にも配慮しつつ、順次整備に着手することとします。

なお、活用を検討する国庫補助金、市債等の状況や地元調整の進捗などにより、スケジュールが前後することがあります。

また、計画期間中に更新年次をむかえる市民館のうち、ポートフォリオ分析に基づく分類が「長寿命化」となっている下長山地区市民館、国府東地区市民館、市田地区市民館については、施設の状況を踏まえた長寿命化に適宜取り組みます。

施設名	施設面積（㎡）		備　考
	整備前	整備後	
千両地区市民館	502.00	330.00	建替え
下郷地区市民館	389.29	天王小学校区として整備方針を検討	
中条地区市民館	413.90		
金屋地区市民館	484.90	金屋小学校区として整備方針を検討	
金屋南地区市民館	415.86		
中部南地区市民館	460.65	中部小学校区として整備方針を検討	
中部西地区市民館	415.80		
合　計	3,082.40		

（１）千両地区市民館【建替え】（第２期営繕計画から継続）

千両地区市民館は、昭和５４年に建設し、主に千両連区（千両・千両住宅・東数谷原・下西ノ谷・上西ノ谷・南千両の６町内会）のコミュニティ活動拠点として活用されています。また、連区のエリアは千両小学校区と同一であることから、「小学校区又は連区を単位とする」としている適正配置方針に沿ったものとなっています。

第２期営繕計画において、人口推計を踏まえてスタンダードモデルでの建替えとすることを位置付けており、建替え用地の確保及び実施設計を完了しています。

A. 千両小学校区の居住人口推計（第２期営繕計画策定時）

	令和２年	⇒	令和 42 年(推計)
居住人口	2,204 人	⇒	2,200 人

※令和２年４月１日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

・所在地　　豊川市千両町小路８番地の４

・敷地面積　　1,223.11 ㎡

・建物概要

		建替え【前】	建替え【後】
構　　造		鉄骨造２階建	鉄骨造平屋建
延床面積(面積比)		463.00 ㎡	330 ㎡（71.3%）
	1　　階	316.00 ㎡	330 ㎡
	2　　階	147.00 ㎡	―
施 設 内 容		遊戯室、和室（10 帖＋12 帖)、研修室、事務室、調理室、図書室	集会室、和室(15 帖)、会議室、事務室、調理室、防災倉庫

※他に自転車置場（39 ㎡）あり

C. 事業費見込み

種　　別	金額（千円）	備　　考
建　築　工　事	168,300	330 ㎡×@510,000 円/㎡
太陽光システム	12,041	発電容量５Ｋｗ、蓄電池付き
解　体　工　事　費	32,630	502 ㎡×@65,000 円/㎡（処分費含む）
消　　費　　税	21,298	１０％
合　　計	234,269	

※調査費、設計費(基本設計、実施設計)は含まない。

※建替え工事に伴う引越し費用などの諸経費は含まない。

D．スケジュール

	令和９年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度
地元説明					
調査・設計					
建築工事	●	●			
供用開始		●			

※供用開始は令和１０年度を目指します。



千両地区市民館

（２）下郷地区市民館及び中条地区市民館

天王小学校区には、主に下郷連区（正岡、行明、柑子、瀬木、塚田、西島、瀬木住宅、新瀬木の８町内会）のコミュニティ活動拠点として活用されている下郷地区市民館と、主に中条連区（中条１区、中条２区、中条３区、中条東区、中条５区の５町内会）で活用されている中条地区市民館の２館が配置されています。

下郷地区市民館は、昭和５２年度の建設から４５年以上が経過し、建替え時期をむかえています。また、昭和５６年度に建設された中条地区市民館についても、令和９年度には建替え時期をむかえます。

天王小学校区における令和４２年の居住人口の推計は 3,198 人であることから、適正配置方針に示す基本的な考え方及び施設の規模を踏まえると、２館を統合し、新たにスタンダードモデルによる新地区市民館の建設を検討することとなります。

一方、豊川市洪水ハザードマップにおいて、天王小学校区は区域の南側が豊川水系豊川、豊川放水路の洪水浸水想定区域に指定されており、当該区域の指定避難所のうち、洪水、内水氾濫に対応する避難先は中条地区市民館のみとなっています。

新地区市民館の配置や構造、新地区市民館整備後の旧地区市民館の取り扱いについては、上記を踏まえ総合的に検討する必要があります。

Ａ．天王小学校区の居住人口推計

	令和７年	⇒	令和 42 年(推計)
居住人口	4,720 人	⇒	3,198 人

※令和７年４月１日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

		下　郷	中　条	天　王（仮称）
構　造		鉄骨造２階建	鉄骨造２階建	鉄骨造平屋建
延床面積		374.29 ㎡	405.00 ㎡	330 ㎡
	１階	240.65 ㎡	261.00 ㎡	330 ㎡
	２階	133.64 ㎡	144.00 ㎡	―
施設内容		集会室、和室(12.5 帖、10 帖)、会議室、事務室、調理室、図書室	集会室、和室(15 帖×2)、会議室×2、事務室、調理室	集会室、会議室×2、事務室、調理室、防災倉庫

※他に自転車置場（下郷 15 ㎡、中条 8.9 ㎡）あり

C. 事業費見込み

種　別	金額（千円）	備　考
建　築　工　事	168,300	330 ㎡×@510,000 円/㎡
太 陽 光 シ ス テ ム	12,041	発電容量５Ｋｗ、蓄電池付き
消　費　税	18,034	１０％
合　計	198,375	

※用地費、調査費、設計費(基本設計、実施設計)、移転に伴う引越し等の諸経費、旧地区市民館の用途廃止後に生じる解体工事費などの諸経費は含まない。



下郷地区市民館



中条地区市民館

（３）金屋地区市民館及び金屋南地区市民館

金屋小学校区には、主に金屋連区（金屋１区、金屋２区、金屋３区、金屋４区、金屋５区の５町内会）のコミュニティ活動拠点として活用されている金屋地区市民館と、主に金屋南連区（金屋橋、赤代、穂ノ原住宅の３町内会）で活用されている金屋南地区市民館の２館が配置されています。

金屋地区市民館は、昭和５５年度の建設から４５年以上が経過し、建替え時期をむかえています。一方、平成４年度に建設された金屋南地区市民館については、建替え年度は令和２０年度となっています。

金屋小学校区における令和４２年の居住人口の推計は 2,625 人であることから、適正配置方針に示す基本的な考え方及び施設の規模を踏まえると、２館を統合し、新たにスタンダードモデルによる新地区市民館の建設を検討することとなります。

Ａ．金屋小学校区の居住人口推計

	令和７年	⇒	令和 42 年(推計)
居住人口	4,897 人	⇒	2,625 人

※令和７年４月１日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

		金　屋	金屋南	金屋（仮称）
構　造		鉄骨造２階建	鉄骨造２階建	鉄骨造平屋建
延床面積		463.90 ㎡	406.00 ㎡	330 ㎡
	１階	266.90 ㎡	242.00 ㎡	330 ㎡
	２階	197.00 ㎡	144.00 ㎡	―
施設内容		集会室、和室(8 帖、6 帖、15 帖×2)、会議室、事務室、調理室、図書室	集会室、和室(15 帖×2)、会議室、事務室、調理室、図書室	集会室、会議室×2、事務室、調理室、防災倉庫

※他に自転車置場（金屋 21 ㎡、金屋南 9.86 ㎡）あり

C. 事業費見込み

種　別	金額（千円）	備　考
建　築　工　事	168,300	330 ㎡×@510,000 円/㎡
太 陽 光 シ ス テ ム	12,041	発電容量５Ｋｗ、蓄電池付き
消　費　税	18,034	１０％
合　計	198,375	

※用地費、調査費、設計費(基本設計、実施設計)、移転に伴う引越し等の諸経費、旧地区市民館の用途廃止後に生じる解体工事費などの諸経費は含まない。



金屋地区市民館



金屋南地区市民館

（４）中部南地区市民館及び中部西地区市民館

中部小学校区には、主に中部南連区（高見、四ツ谷１区、四ツ谷２区、光輝の４町内会）のコミュニティ活動拠点として活用されている中部南地区市民館と、主に中部西北連区（諏訪３区、諏訪４区、中部、佐奈川、源才の５町内会）で活用されている中部西地区市民館の２館が配置されています。

中部南地区市民館は、昭和５６年度に建設され、令和９年度に建替え時期をむかえます。また、昭和５８年度に建設された中部西地区市民館についても、令和１１年度には建替え時期をむかえます。

中部小学校区における令和４２年の居住人口の推計は 9,785 人であることから、適正配置方針に示す基本的な考え方及び施設の規模を踏まえると、２館を統合し、新たにラージモデルによる新地区市民館の建設を検討することとなります。

Ａ．中部小学校区の居住人口推計

	令和７年	⇒	令和 42 年(推計)
居住人口	13,106 人	⇒	9,785 人

※令和７年４月１日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

		中部南	中部西	中部（仮称）
構　造		鉄骨造２階建	鉄骨造２階建	鉄骨造平屋建
延床面積		444.65 ㎡	405.00 ㎡	440 ㎡
	１階	252.65 ㎡	209.70 ㎡	440 ㎡
	２階	192.00 ㎡	195.30 ㎡	―
施設内容		集会室、和室(18 帖、15 帖)、会議室、事務室、調理室、図書室	集会室、和室(18 帖、15 帖)、会議室、事務室、調理室、談話室	集会室、会議室×3、事務室、調理室、防災倉庫

※他に自転車置場（中部南 16 ㎡、中部西 10.8 ㎡）あり

C. 事業費見込み

種　　別	金額（千円）	備　　考
建　築　工　事	224,400	440 ㎡×@510,000 円/㎡
太 陽 光 シ ス テ ム	12,041	発電容量５Ｋｗ、蓄電池付き
消　費　税	23,644	１０％
合　　計	260,085	

※用地費、調査費、設計費(基本設計、実施設計)、移転に伴う引越し等の諸経費、旧地区市民館の用途廃止後に生じる解体工事費などの諸経費は含まない。



中部南地区市民



中部西地区市民館

（５）スケジュール（参考）

（２）から（４）に位置付ける３地区について、各地域の意向を踏まえながら、建替え時期の分散による予算の平準化にも配慮しつつ、順次整備に着手します。

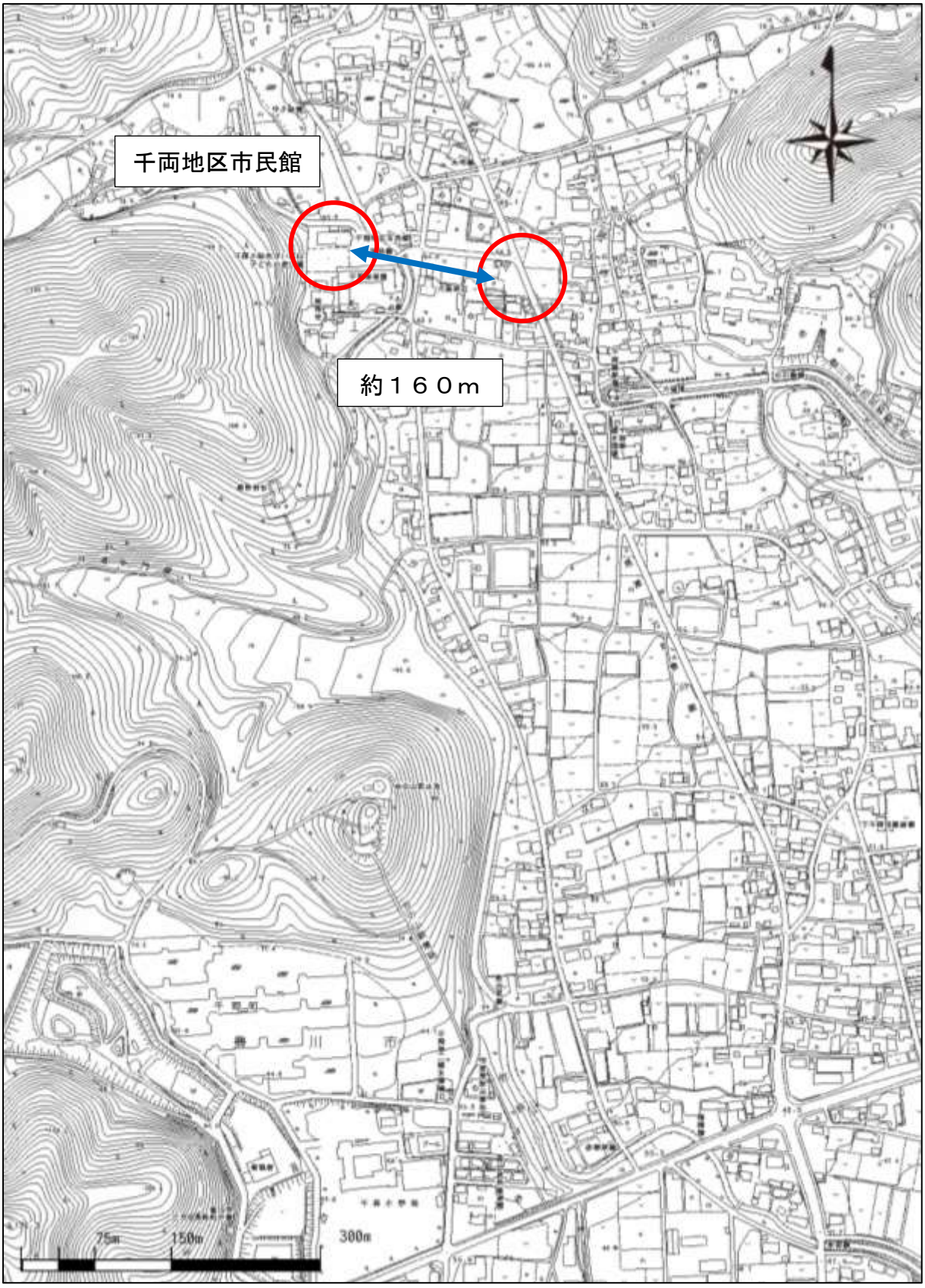
	令和９年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度
地元調整	●				
用地取得		●			
調査・設計			●	●	
建築工事					●
供用開始					

※上記スケジュールにおける供用開始は令和１４年度を想定しています。

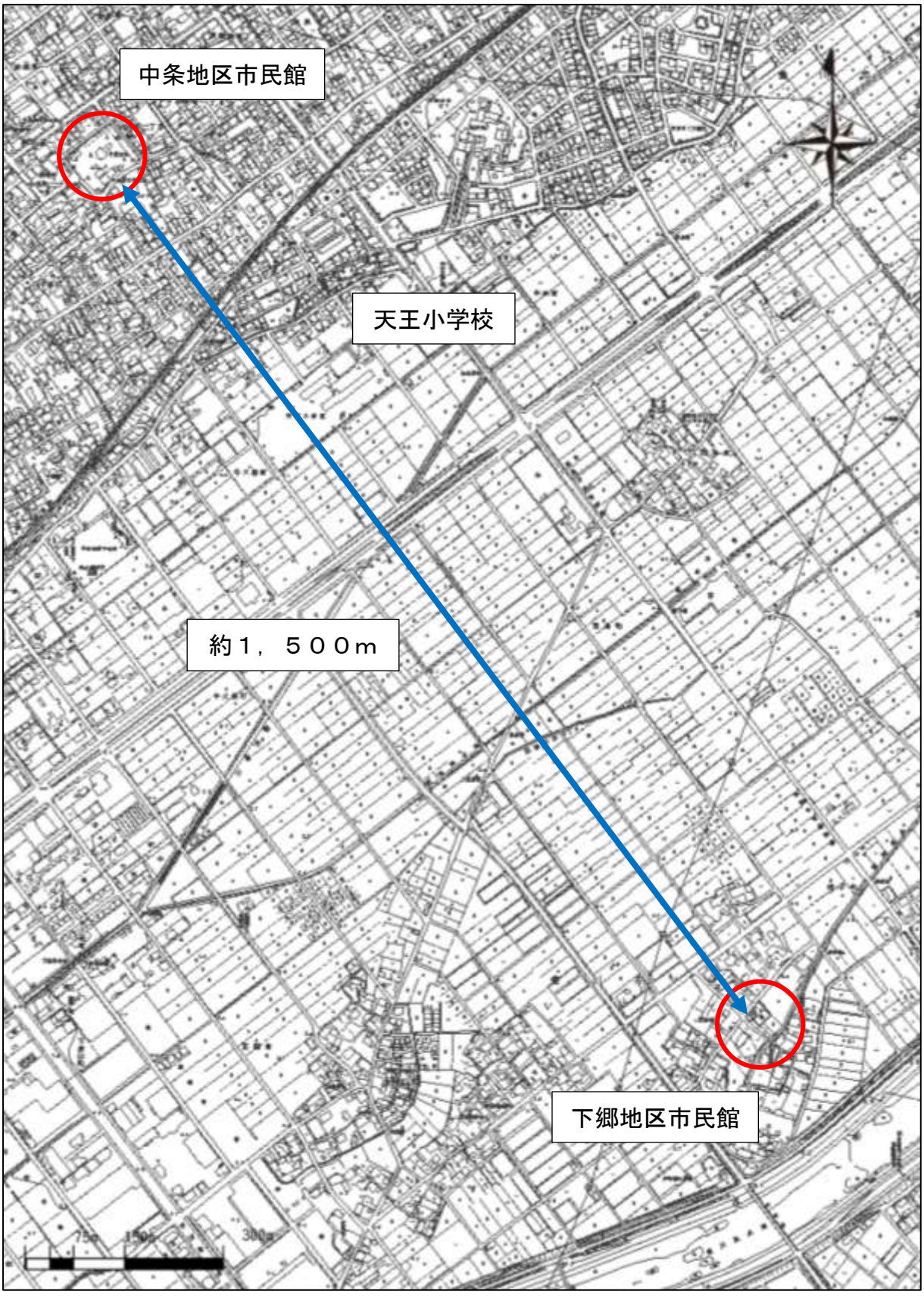
※２地区目以降は、１地区目の進捗状況を踏まえて着手時期を決定します。

【参考資料】

千両地区市民館



天王小学校区



金屋小学校区



中部小学校区

